

## 審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	立川市環境審議会
開催日時	平成 28 年 11 月 28 日（月曜日）14 時 00 分～16 時 05 分
開催場所	立川市役所本庁舎 1 階 104 会議室
次第	1. 開会あいさつ 2. 議題 （1）環境施策の進捗状況について（たちかわし環境ブック） （2）その他 ①平成 28 年度家庭で取り組むエコチャレンジについて ②事務連絡 3. 閉会
配布資料	（事前配布）資料 たちかわし環境ブック 2016（案） 資料 1 たちかわし環境ブック 2016 発行スケジュール 資料 2 環境ブック 構成検討資料 資料 3 第 10 期 立川市環境審議会 委員名簿
出席者	[委員] 会長 原剛、副会長 伊藤麻紀子、森田寛臣、関口貴、齋藤孚彦、 村田佳壽子、吉岡正司、田中良明（敬称略） [事務局] 大野茂（環境下水道部長）、五十嵐智樹（環境対策課長）、八谷俊太 郎（環境推進係長）、中原靖夫（環境指導係長）、神宮聖治（温暖化 対策係長）、倉田雄一（環境推進係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	1. たちかわし環境ブックについて （1）構成内容について ・グラフは、表示する年度の統一をできる限り図ること ・章ごとに市民へ呼びかける文面構成を検討すること （2）特集のテーマについて ・エネルギー問題を考えた「温暖化対策」、多様性（ダイバーシテ ィ）にもつながる視点から「生物多様性」、市民が参加しやすい 環境問題として「フードロス」の 3 点が挙げられた。事務局で テーマを決定し特集記事を作成する。
担当	環境下水道部環境対策課環境推進係 電話 042-528-4341

## 第10期第2回立川市環境審議会 会議録

開催日時 平成28年11月28日（月曜日） 午後2時00分～午後4時05分

開催場所 立川市役所本庁舎1階104会議室

出席者 [委員] 会長 原剛、副会長 伊藤麻紀子、森田寛臣、関口貴、齋藤孚彦、  
村田佳壽子、吉岡正司、田中良明 (敬称略)

[事務局] 大野茂（環境下水道部長）、五十嵐智樹（環境対策課長）、八谷俊太郎（環境推進係長）、中原靖夫（環境指導係長）、神宮聖治（温暖化対策係長）、倉田雄一（環境推進係）

### 1 あいさつ

### 2 諮問

<諮問：たちかわし環境ブックについて>

事務局より事前配布資料および当日配布資料1、2の説明を行った。

#### (1) 構成内容について

- ・グラフの目標値が離れて表現されている。表に空白部分があり未完成に見えるので、目標値を近づけて表現してはどうか。グラフの年度もばらばらなので、合わせる方が見やすい。  
⇒年度の統一も含め分かりやすい表現にします。
- ・市民の責務に公害の防止が入っているが、これは事業者の責務なのではないか。公害というと市民ではなく事業者のように感じる。  
⇒条例には、市民の責務に公害の防止が書かれているが、表現を修正します。
- ・環境ブックの市民一人一人の意識を変えようという目的から考えると、内容が少し難しいと感じる。入口に人の気持ちに向く表現や資料、市民に呼びかける表現を考えてはどうか。  
⇒特集、第1部、第2部で見せ方、受け止め方を表現できるように検討します。
- ・環境とは何か明確ではなく、概念としてつかみきれない部分がある。環境には、自然、人の暮らし、そして文化としての環境がある。アメニティとして心に呼びかける必要がある。特集との連動でも考えるべき視点である。
- ・世界の中での日本、日本の中での立川という視点から呼びかける内容を記載してはどうか。
- ・ごみの問題や資源化などもどのように温暖化につながるのか、現在行っていることを次につながるように表現してもらいたい。エネルギーを自分で選ぶ時代になっている。世界での取組事例や東京都内での取組事例などもある。立川市民はこういうことができるのか、世の中の動向に合わせて環境面を表現すべきである。

#### (2) 特集のテーマについて

- ・市民参加意欲が出せるテーマであり、立川から日本、世界につながるテーマを考えるべきである。何を歓迎し、何が不用かをわかる特集記事としたい。  
過去には、2009、2012、2013、2015と4回温暖化に関連する特集を掲載している。

この4回の内容を包括して温暖化対策について、人の行動につながる内容を記事とすることが考えられる。原子力発電所の課題から新エネルギーへの転換という視点もある。

同様に、生物多様性でも課題がある。立川市では緑の回廊、日本では農業の多面的活用、世界では生物多様性条約という視点から生物多様性について、記事とすることが考えられる。生物多様性の法律では、自由で多彩な生き物が存在するという部分が大事であり、ダイバーシティの考え方に通じる部分もある。立川市での市民活動も十分に行われているので、自由で活動に富んだ町として立川を生物多様性の課題から描くことができるのではないかな。

- 生物多様性については、他市と比較して立川市は取組が遅れていると思う。特集とするならば、市民のみなさんにできることを声掛けし、スケジュールも含めて、何年後にどういったことができているのか、市として参加してもらいたいことも記載してアピールする特集としてもらいたい。葛飾区では環境トランプが作られ、楽しく学べる工夫がされている。立川市では、市の鳥も決まっていない。ぜひ、生物多様性主体で活動をしてもらいたい。
- 食品ロスや廃棄物に対する取組をテーマに取り上げてもらいたい。市民が参加しやすい、身近なものに入り込んで協働の活動として取り組んでもらえるのではないかな。
- ごみ対策では、生ごみなど水分を含んだものが多いと聞いている。生物多様性は、虫や植物といった小学生などがわかる広範囲に広がるものを作ってはどうか。人は目の前に来て初めて行動する部分がある。樹木も少なくなる傾向にあると思うので、生物を取り上げるのもいいのではないかな。
- 環境問題は、プラスとマイナスの結果が起きるまでに長時間かかる。すぐに何か起こるわけではない。ぜひ、地域や時空のギャップを埋めるような書き方をしてもらいたい。世の中は今、個人主義になってきている。みんなを考えるテーマ性を持ってもらいたい。  
生物多様性では、1秒間の負、緑が失われていく、虫が死んでいく、という話が子どもたちに非常に印象を与えていた。
- エネルギー問題は、生活の質、経済問題につながっている。様々なエネルギーが選べるようになってきている。石油は化学材料として残し、石油とは異なるエネルギーを選ぶことが、環境教育につながり、生き方を選ぶことになる。温暖化対策をエネルギーの視点で書いてはどうか。
- 環境報告書は、総花的でどこを読んで理解するか難しい部分がある。特集で訴えかけるものにすべきである。ごみや温暖化からひも解くことがわかりやすいのではないかな。食品ロスという視点も良いのではないかな。食品ロスを考える中で、調理の時のエネルギーの使い方、地産地消など様々な事が学べると思う。食品をテーマに考えるのがよいのではないかな。
- エネルギーについては、それぞれ個人の選択の時代に入っていくので大事なことだと考えている。食品ロスについては世界全体の食品援助量に比べて、廃棄されている食品量が2倍を超えているという状況である。立川市でも大学生と協力し

た事業や食べきり協力店舗など様々な取り組みを行っている。

生物多様性は、市内の団体と調査を始めており、市民の意識の醸成が大事になっている。これまで取り扱ってこなかった部分もあるので、生物多様性も面白いテーマだと感じている。

- 温暖化対策、生物多様性、食品ロスといったテーマが出された。どのテーマが今回の特集記事のテーマにふさわしいかは事務局の判断に委ねる。次回の審議会では、テーマとそれに則った特集記事が提示されるので、ぜひ議論を深めたい。特集記事を読み確認する時間を取りたいので事務局はぜひできあがったら早めに資料を送付してもらいたい。

### 3 閉会

以上